

【緒言】

我々は高知県歯科医師会として県民へのスポーツ歯科医学の普及のためにこれまで様々な取り組みを行ってきた。

2008年の活動を挙げると、

○スポーツの現場に対して

- (1) 県ラグビーフットボール協会主催ラグビーフェスティバルにおけるアピール活動(4月)
- (2) スポーツの盛んなある県立高校に対するアピール活動およびサポート活動(4~12月)

○競技団体および医科学関係者に対して

- (3) 県体育協会役員会におけるスポーツ歯科医学説明資料の配布, 紹介(3月)
- (4) 県スポーツ医科学サポート連合会に参画, 関係者に対する講演活動(3, 5月)

○歯科医療従事者に対して

- (5) 県歯科医師会学会における講演発表(2月)
- (6) 「マウスガード製作簡易マニュアル」の作成, 県歯科医師会及び県歯科技工士の全会員への配布(8月)

これら活動の中でも(2)のある高校に対して行ったアプローチについて以下に報告する。

【対象】

対象校は高知県南国市の西部に位置する, 生徒数900名あまりの県立高校(〇校)である。運動系部活動が盛んで, 特に男子ソフトボール部, 女子柔道部は国内外で輝かしい成績を収めてきている。

【経過とその詳細】

2008年

3月 ・〇校運動系部活動指導者に対するスポーツ歯科医学講習会開催の依頼を受ける。

4月 ・〇校にて運動系部活動指導者に対する講習会を開く。(出席指導者13名(11競技, 13種目), 全2時間)

- 内容: スポーツ歯科医学総論(歯のコンディショニング, 噛みしめとパフォーマンスの関連性, 口腔領域の外傷とその予防の為のマウスガード)
- ・講習会当日, 開催前に出席指導者に対してスポーツと歯に関するアンケート調査を実施する。
 - ・講習会の3日後, 女子バスケットボール部指導者より3名の選手に対するマウスガード製作の依頼を受け, 製作, 提供する。

5月 ・〇校女子バスケットボール部が高知県高校体育大会で優勝。マウスガードを着用した選手の写真が翌日の高知新聞に掲載され, 話題となる。

- ・大会期間の試合中に〇校女子バスケットボール部所属でマウスガード未着用の選手が相手選手との接触により上顎前歯を負傷する。

7月 ・〇校女子バスケットボール部全国高校総合体育大会に出場, 1回戦敗退

その後も12月まで月に1回程度, 女子バスケットボール部の練習を訪問し, フォローアップを行う。

チーム成績としては県高校夏季選手権大会(9月)および秋季選手権大会(11月)において優勝, 全国高校選抜優勝大会(12月)では1回戦敗退であった。

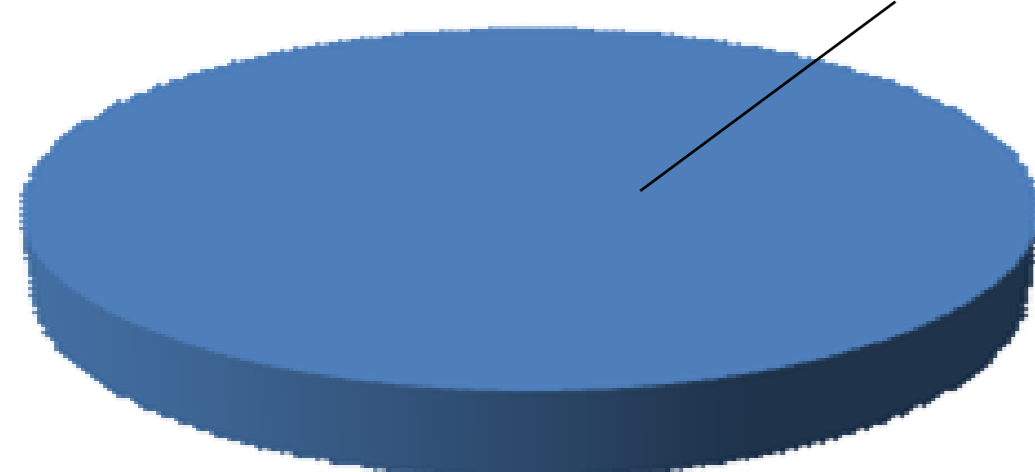
1. 講習会開催前アンケート調査について

講習会当日, 開催前に指導者のスポーツと歯に関する認識を調べるためアンケート調査を行った。

対象は講習会に参加した〇校運動系部活動指導者13名(男性11名, 女性2名, 年齢: 35~50歳, 平均41.8歳)である。担当競技は, サッカー, 男子柔道, 女子柔道, ソフトボール, ハンドボール, 男子バスケットボール, 女子バスケットボール, 陸上競技, なぎなた, バレーボール, バドミントン, ボクシング, 野球であり, 指導経験年数は11~25年, 平均17.6年であった。

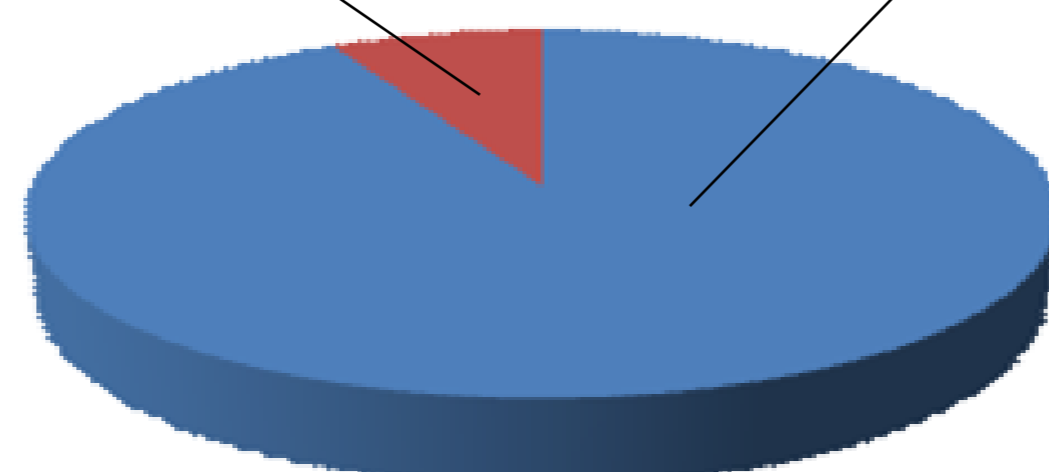
Q1. スポーツ選手にとって歯やかみ合わせは大切だと思いますか?

思う: 13名(100.0%)



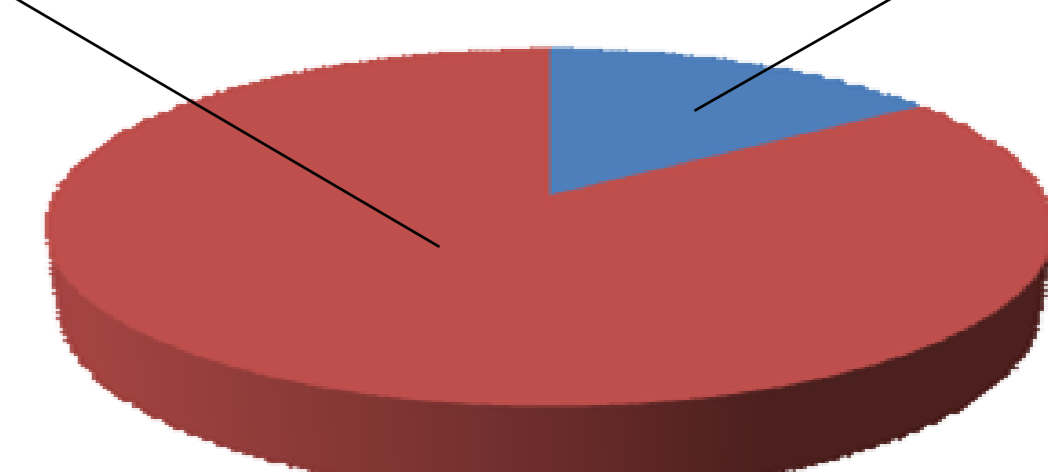
Q2. マウスガードを知っていますか?

知らない: 1名(7.7%) 知っている: 12名(92.3%)



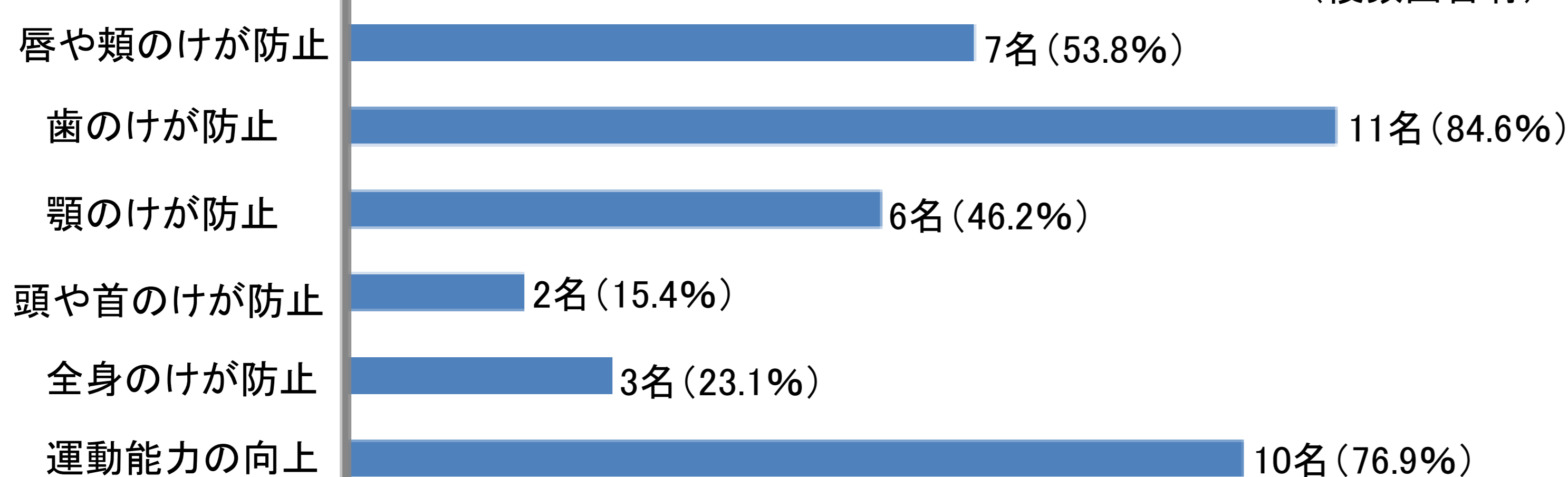
Q3. マウスガードを使用した経験がありますか?

経験なし: 11名(84.6%) 経験あり: 2名(15.4%)



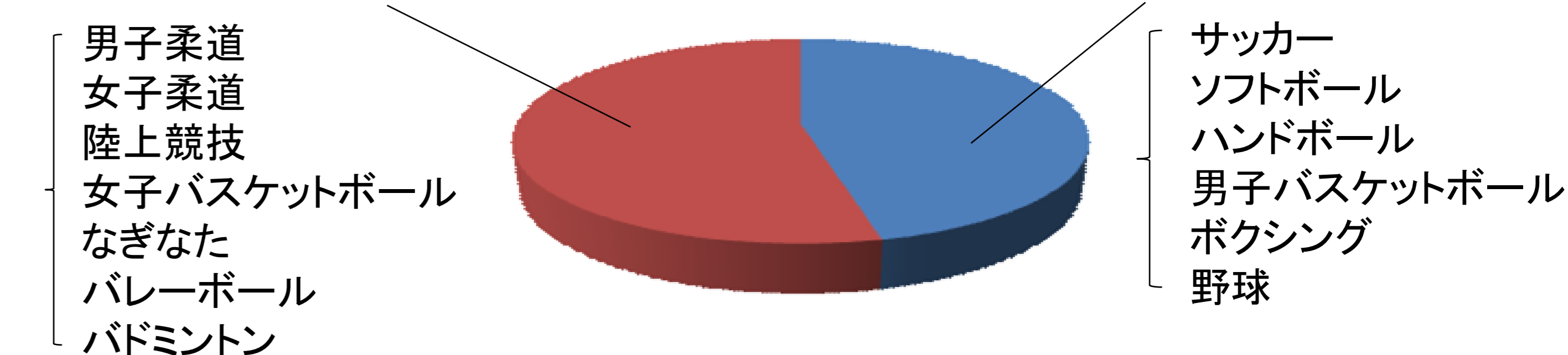
Q4. マウスガードを使用することによりどのような効果があると考えますか?

(複数回答有)



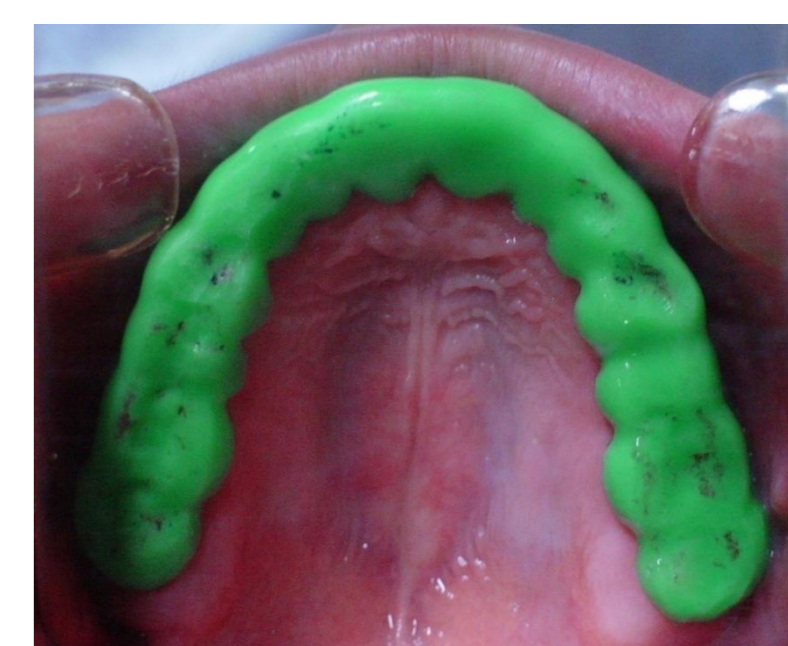
Q5. ご自身の担当競技においてマウスガードの使用は必要であると考えますか?

必要でない: 7名(53.8%) 必要である: 6名(46.2%)



2. 提供したマウスガードについて

今回女子バスケットボール部選手に提供したマウスガードは, エチレン酢酸ビニル共重合樹脂(EVA)シート(厚さ3.8mm)1枚を吸引成形器にて歯列模型上に軟化圧接して製作したいわゆるシングルレイヤータイプ(右写真)である。今回は大切な試合の直前で時間が無いこともあり, 指導者側の判断で, 接触の多いセンターポジションの選手, 口腔内を負傷した経験のある選手そして保定装置を装着している選手の3名のみ製作, 提供した。



女子バスケットボール部選手に提供したマウスガードの一例

3. マウスガード未着用選手の負傷について

負傷した選手はガードポジションの選手であり, 試合中に顔面が相手チーム選手の後頭部と衝突, 上顎右側中切歯を亜脱臼した。救急車にて総合病院に運ばれ, 歯科口腔外科医師により即時に整復, 固定処置を受けた。

【考察】

今回アプローチした〇校では2005年9月に体育祭にて口腔外傷事故が発生し, これを憂慮した学校歯科医が翌年2月の学校保健委員会にてマウスガードを紹介, 保健室に進呈した経緯がある。しかし, 事故から2年以上経過し, 生徒の入れ替えに加え教員の異動もあるため, 新たにスポーツ歯科医学普及推進を計画し, 学校スポーツにおける指導者の影響の大きさを考慮して運動系部活動指導者に対する講習会から始めた。

講習会開催前アンケート調査結果より, 本指導者たちは歯の大切さを認識しており, マウスガードについても概ね理解していたことが推察される。しかし, その大半がマウスガード使用経験が無く, 詳しく話を聞いたことがないという程度であった。実際, 講習会終了後では「マウスガードに初めて詳しく触れることができた。」「スポーツと歯の関係について今まで漠然としかわからなかったが, 今回の講習会で十分に理解することができてよかった。」という意見が多く聞かれた。ちなみに, マウスガード着用が義務化されているボクシング部は既に近医にてマウスガードを製作してもらっていた。

講習会終了時に選手に対する講習やマウスガード製作を希望する場合にはいつでも我々に連絡いただけるように通達しておいたこともあり, その3日後に女子バスケットボール部指導者からマウスガード製作の依頼を受けた。実はこの指導者は講習会開催前アンケート調査では自分の指導する競技においてマウスガードは必要ないと回答しており, このことからまずはスポーツ歯科医学に関して正しく理解してもらうことの重要性が確認された。しかし, 今回マウスガードを提供できたのは指導者側の判断で最も必要と考えられる選手3名のみであり, 我々としては全選手にマウスガードを提供したかったが, 時間と予算が許さず, 断念せざるを得なかった。我々の指導も至らず, その後の試合においてマウスガード未着用の選手が不幸にも負傷してしまったことは大変残念であった。

マウスガードを製作した選手3名全員が3年生だったこともあり, サポート活動は3年生部活動引退時の12月まで行った。本来ならば指導者のみでなく選手に対しても「スポーツにおける歯の重要性」について講習を行う必要があったが, 女子バスケットボール部指導者よりシーズン中のため時間が取れないとの回答で先延ばしになった挙句, 結局行うことができなかった。やはり選手に対する講習も行い, 歯科保健に対する意識のより一層の向上に努めるべきであり, 選手全員にマウスガードを提供できなかったことも含め, 反省すべき点である。

今回初めて高校スポーツの現場にアプローチする機会を得たが, 我々の期待どおりに進まないことも多く, 現場での普及活動の難しさを肌で感じるとともに, 選手, 指導者双方へのアプローチを計画的, 継続的に行うことの重要性を再確認した。今後も可能な限り現場に対するアプローチを行い続け, 高知県におけるスポーツ歯科医学の普及に貢献していきたいと考える。



2008年5月20日付高知新聞朝刊掲載写真